

課題研究要旨

道北地域における精神保健医療福祉の現状と 歴史的展開に関する基礎的研究

松浦智和¹⁾ *、永井順子²⁾、今西良輔³⁾、大島康雄⁴⁾

¹⁾ 名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科、²⁾ 北星学園大学社会福祉学部

³⁾ 札幌大谷大学短期大学部、⁴⁾ 道都大学社会福祉学部

1. 研究の目的・関心

現在、わが国の精神保健医療福祉領域では、長期入院患者の退院促進が急務の課題となっており、地域の実情に合わせて精神障害者に対するコミュニティケアを構築することが模索されているといえる。本研究の関心である道北（上川北部・宗谷・遠紋）地域は、公立の総合病院を核とする精神保健医療体制を特色とし、また、名寄・紋別では道内でも比較的早期に社会復帰施設（通勤寮など）の運営が開始されたことも知られている。他方で近年では「精神科医療の過疎地域」との指摘もあるなか、当該地域の精神保健医療福祉体制の現状と歴史的展開過程については、詳らかになっていないというのが実状である。また、これまで筆者らは、資料・史料の収集・整理からこれらを検討してきたが、殊に、本地域における精神保健福祉領域の活動は文字化されたものが少なく、以上のことから、本研究では、各地の活動の先駆者や関係者の方へのインタビュー調査を実施し、「道北地域における精神保健医療福祉の歴史的展開と転換期を考察すること」を試みた。

2. 研究方法

本研究では、上記の目的・関心の下、資料・史料収集と分析を進めるとともに、道北地域における精神保健医療福祉の歴史的展開を知る4名の専門職や家族会関係者へのインタビュー調査を実施した。

インタビュー 対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・A氏：名寄市内の精神障害者家族会関係者 ・B氏：名寄市内で障害福祉サービス事業所を運営する社会福祉法人の理事長 ・C氏：名寄市内の障害福祉サービス事業所の精神保健福祉士 ・D氏：遠紋地区の精神保健医療福祉について、歴史的経緯を知る保健師
調査方法	半構造化インタビュー調査、資料・史料収集と分析
調査内容	<p>〈インタビュー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入職時の当該地域の精神保健医療福祉の状況について ・当該地域における精神保健福祉ソーシャルワーク活動の展開について(周辺のソーシャルワーカーや医師、看護師、保健師らとの連携を含む) ・これからの精神保健福祉専門職へ伝えたいこと ・保健所の活動(アウトリーチ、社会復帰学級など) <p>〈資料・史料収集〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の精神科病院史 ・各地域の社会復帰施設づくりのあゆみ ・各地域の精神保健福祉に関わる法人、事業所の史料

3. 結果・考察

本研究では、4名へのインタビュー調査を実施し、上川北部、宗谷、遠紋の各医療圏における精神保健医療福祉の歴史的展開の一端や、各地で新たな事業を展開する際にキーマンとなった人々の存在、地域の協働体制があったことが示唆された。本調査の結果は次年度の本誌への投稿を行う予定である。

*責任著者 E-mail:matsuura@nayoro.ac.jp